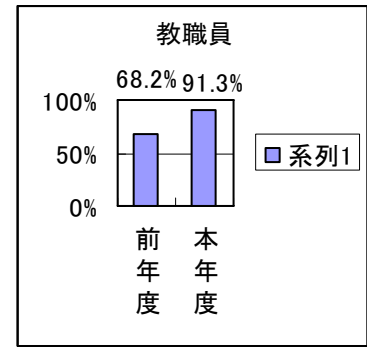
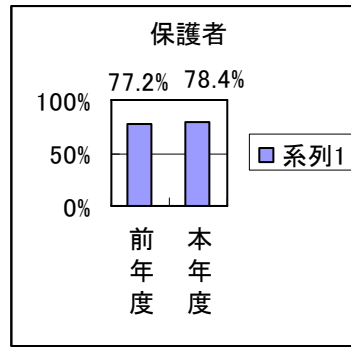
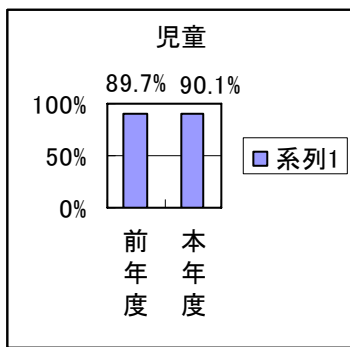


(1) 心づくり

①テーマ	「心づくり」 Aいじめについて (人権教育として取り組む)			
②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> ・形式的に「謝らせて終わる」指導ではなく、いじめ行為 (言動を含めて) の重さをしっかり考えさせる等子どもの心に響く、また当事者が納得できる指導や対応にさらに努めてほしい。なお、この取り組みは小学校に限らず保幼小中一貫して取り組んでもらいたい。 ・こうした取り組みを子どもや保護者にしっかり伝えていく努力が必要である。 			
③今年度重点的な取り組み		④進捗状況		
仲間と共に育つ豊かな心と体を育てる 豊かな人間関係づくりと、いじめをなくす取り組み。(つながるとりくみ) ○いじめアンケート (生活アンケートの実施)、事象への組織的な指導をする。 ○各学年での分野別人権教材の学習 (年間指導計画による) をする。		○いじめアンケート7月上旬実施。 ○全校で随時取り組むと共に保護者とも連携して継続的に取り組んでいる。		
自己評価	小学校	年度	項目	A+B
	児童	前年度	(3-2)先生たちは、いじめやこまっていることについてきちんと助けてくれる	87.2%
		本年度	(3-2)先生たちは、いじめやこまっていることについてきちんと助けてくれる。	84.0%
	保護者	前年度	(3-2)学校はいじめや子どもが困っていることについてしっかりとりにくんでいる。	67.1%
		本年度	(3-2)学校はいじめや子どもが困っていることについてしっかりとりにくんでいる。	62.1%
	教職員	前年度	(3-2)学校は、いじめや子どもが困っていることについてしっかりとりにくめている。	77.3%
		本年度	(3-2)学校は、いじめや子どもが困っていることについてしっかりとりにくめている。	82.6%
⑤自己診断	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="263 929 614 1276"> <p style="text-align: center;">児童</p> <p style="text-align: center;">前年度 本年度</p> </div> <div data-bbox="670 929 1021 1276"> <p style="text-align: center;">保護者</p> <p style="text-align: center;">前年度 本年度</p> </div> <div data-bbox="1077 929 1428 1276"> <p style="text-align: center;">教職員</p> <p style="text-align: center;">前年度 本年度</p> </div> </div> <p>・ A Bの肯定的な意見について、児童においては 84.0%、保護者においては 62.1%となっている。昨年度は、児童 87.2%、保護者 67.1%であり、児童は、約 3%、保護者は約 5%減少している。</p> <p>・ 教職員については、今年度 82.6%で昨年度 77.3%と比べると約 6%上昇し児童の数値と近くなっている。学校生活アンケートをもとに、いじめに対して意識して取り組んでいった結果である。</p> <p>・ 児童約 6%、保護者約 6%がしっかりとりにくんでいると思わないと記載している。このことは教職員として取り組みを深めなければならないことをしめしている。</p> <p>・ 教職員のポイントの増は、昨年の学校評価や研修等から今年度意識的に取り組んでいること等があると考えられる。一方、児童、保護者の評価が下がっている要因としては、まだまだ教職員の知らないいじめや困っていることが存在している、あるいは児童や保護者の受け止めと教職員の受け止めにギャップがあるためと考えられる。</p>			
⑥改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ対応プログラムやこころのノートなどを使い道徳の時間などで組織的に取り組む。 ・ 児童との面談を計画的に行い、また保護者とも連携して児童の様子や気持ちを深く理解することに努める。 ・ 教職員がいじめ対応の研修を行い、事実確認をし、子どもたちが納得するような対応をする努力、また教育説明会や学校の通信の配布や学級からの発信等行っているが、なかなか伝わっていない現状がある。伝え方をもう一度見直さなければならない。問題が起きた時、初期対応が特に大切で、チームを作り迅速に的確に対応できるようにする。 ・ いじめに繋がる仲間関係のあり様を日常的に観察し、教職員の感性を高めるよう努める。 ・ 児童会を通じて、「いじめを考え防ぎ週間」や「友だちと仲良くする週間」、「悪口を言わない週間」等を企画し取り組む。 			
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の日常生活を細部に亘って捉え、態度や心の変化を積極的に受け止め、そして共感していくように一層努め、児童、保護者との信頼関係を深めるようにされたい。 ・ いじめは早期発見とすばやい対応が必要。また、事象が起きているクラスだけでなく全てのクラス・学校全体で取り組んでいくことが大切である。 ・ 教職員は日常的に児童一人ひとりの人間関係を的確に把握する努力をしてほしい。 			

①テーマ	「心づくり」 B 規律について	
②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保護者、地域が共同して取り組むことによって成果が上がる。こうした取り組みを継続してほしい。 ・児童に主体性を持たせる取り組みは、児童の意欲を高める。こうした取り組みを生活や行動に関わる分野で、そしてさらに他の分野でも生かしてほしい。 	
③今年度重点的な取り組み		④進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> ○班活動と学習ルールの確立に向けて取り組む。 ○きめ細かな登校指導を実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケートによる保護者の評価を授業改善につなげていく。 ○また、登校指導として月初めの朝の1週間登校指導をしている。 ○地区委員さん参加の地区児童会を実施した。

小学校	年度	項目	A+B
児童	前年度	(3-3)先生たちは学習ルールや生活のきまりをしっかり教えてくれる	89.7%
	本年度	(3-3)先生たちは学習ルールや生活のきまりをしっかり教えてくれる。	90.1%
保護者	前年度	(3-3)学校は学習や生活の決まりをしっかり指導している。	77.2%
	本年度	(3-3)学校は学習や生活のきまりをしっかり指導している。	78.4%
教職員	前年度	(3-3)学校は学習のルールや生活のきまりをしっかり指導できている。	68.2%
	本年度	(3-3)学校は学習のルールや生活のきまりをしっかり指導できている。	91.3%



A B の肯定的な意見について、児童においては90.1%、保護者においては78.4%となっている。昨年度は、児童89.7%、保護者77.2%である。昨年度と比べて、児童・保護者とも微増。教職員については昨年度68.2%から91.3%、約23%増である。教職員全体で子どもたちに関して話し合いを行い、子どもたちとの挨拶運動、共に行う清掃活動等具体的に取り組んだことが評価されている。

・約3%の児童がしっかり指導していないと捉えている内容について振り返って明らかにしていく必要がある。

⑥改善の方向性

- ・児童会による「挨拶運動」や「掃除ねんいり週間」など学校でも家庭でもできる取り組みを学校と家庭が連携して進めていく。
- ・「挨拶運動」や「掃除ねんいり週間」などPTAと協力して取り組む。
- ・小中が連携し、児童会や生徒会が連携した「挨拶運動・校外清掃活動」等の取り組みを進める。
- ・教職員が定期的に地域を回り、登校指導や下校指導をすると共に挨拶運動も行う。
- ・教職員が協力して「良いことは」大いに褒め、「いけないこと」はいけないと毅然とした態度で指導する。なぜいけないのか起こった時に対処し、本人と面談し、児童が納得するまで粘り強く指導をする。

学校関係者評価

- ・「いけないこと」に教職員が組織的にすぐに対応できているか点検する必要がある。しかし、一方児童本人が納得する指導は大切だが、その手立てや判断基準について、教職員間はもちろん保護者や児童とも交流しておく必要がある。
- ・「継続は力なり」の言葉もある通り、同じことを繰り返し実践することは大切である。しかし一方、新しい発想で児童の心を揺さぶる取り組みも考える必要がある。また、決まりを守らなかった背景や気持ちを把握し、その上での指導も大切である。

自己評価

⑤自己診断

	①テーマ	「心づくり」 C 挨拶について																										
	②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> ・小中が連携して取り組んで成果が上がっている。今後もこのとりくみを継続してほしい。 ・児童に主体性を持たせる取り組みは、児童の意欲を高める。こうした取り組みを生活や行動に関わる分野で、そしてさらに他の分野でも生かしてほしい。 																										
自己評価	③今年度重点的な取り組み		④進捗状況																									
	○朝のあいさつ運動を実施する（児童会のあいさつ運動を小中同時期に共同して実施する）。		○毎月 1 週間 7：50－8：15 に児童会役員及び学級代表、担当教員等が旗を立てて校門で「あいさつ運動」を実施。地域保護者の方からも挨拶する児童が増えていると評価いただいている。今後も継続実施していく。																									
自己評価	⑤自己診断	<table border="1"> <thead> <tr> <th>小学校</th> <th>年度</th> <th>項目</th> <th>A+B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">児童</td> <td>前年度</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本年度</td> <td>(1-5)朝のあいさつ運動は役立っている。</td> <td>85.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保護者</td> <td>前年度</td> <td>(1-5)児童会や生徒会が中心になりとりくんでいる朝の挨拶運動等は、子どもたちの意識を高めている。</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>本年度</td> <td>(1-5)児童会や生徒会が中心になりとりくんでいる朝の挨拶運動等は、子どもたちの意識を高めている。</td> <td>89.5%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">教職員</td> <td>前年度</td> <td>(1-5)学校は、小中が連携してとりくんでいる朝の挨拶運動等で子どもたちの意識を高めることができている。</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本年度</td> <td>(1-5)学校は、小中が連携して取り組んでいる朝の挨拶運動等で子どもたちの意識を高めることができている。</td> <td>87.0%</td> </tr> </tbody> </table>		小学校	年度	項目	A+B	児童	前年度			本年度	(1-5)朝のあいさつ運動は役立っている。	85.0%	保護者	前年度	(1-5)児童会や生徒会が中心になりとりくんでいる朝の挨拶運動等は、子どもたちの意識を高めている。	90.0%	本年度	(1-5)児童会や生徒会が中心になりとりくんでいる朝の挨拶運動等は、子どもたちの意識を高めている。	89.5%	教職員	前年度	(1-5)学校は、小中が連携してとりくんでいる朝の挨拶運動等で子どもたちの意識を高めることができている。	100%	本年度	(1-5)学校は、小中が連携して取り組んでいる朝の挨拶運動等で子どもたちの意識を高めることができている。	87.0%
		小学校	年度	項目	A+B																							
児童	前年度																											
	本年度	(1-5)朝のあいさつ運動は役立っている。	85.0%																									
保護者	前年度	(1-5)児童会や生徒会が中心になりとりくんでいる朝の挨拶運動等は、子どもたちの意識を高めている。	90.0%																									
	本年度	(1-5)児童会や生徒会が中心になりとりくんでいる朝の挨拶運動等は、子どもたちの意識を高めている。	89.5%																									
教職員	前年度	(1-5)学校は、小中が連携してとりくんでいる朝の挨拶運動等で子どもたちの意識を高めることができている。	100%																									
	本年度	(1-5)学校は、小中が連携して取り組んでいる朝の挨拶運動等で子どもたちの意識を高めることができている。	87.0%																									
学校関係者評価	⑥改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度、挨拶運動は評価されている。しかし、どのような状況を捉えてプラスの評価があるのかも明らかにしていく必要がある。 ・昨年度と比べて、保護者はほぼ変わらない。児童の方も 85.0% と比較的高い評価ではあるが、記述欄に課題を記している児童も複数いた。こうした児童が捉えている課題の検証も行っていく必要がある。 ・一方、地域のサポーターの方等から「挨拶をよくする」とお褒めに預かることも度々あるようになった。こうしたことを児童朝会や学級指導の折に伝え励ましている。 																										
		<ul style="list-style-type: none"> ・継続は力なり。今の取り組みを基本的には続けていけばよいと思う。 ・挨拶運動のリーダーを児童会役員だけでなく、専門部や学級代表などにも広げる工夫をしていく。 ・挨拶運動の立ち番を教職員の輪番で行う。（朝及び放課後） 																										
		<ul style="list-style-type: none"> ・成果が表れている。取り組みを継続してほしい。 ・毎日接している児童の心の変化を適切にすばやく把握し、フォローしていく取り組みを大切にしてほしい。例えば、同じ児童でも日によって挨拶をするときとしないときがあれば、しなかったときこそ、その児童の心の変化を知るよい機会と捉え、適切な言葉かけをしてほしい。 																										

	①テーマ	「心づくり」 D 悩み・相談について		
	②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが話しやすい雰囲気作りを学校はもっと進める努力が必要である。 ・教職員は常に子ども一人ひとりを見つめ、細かく観察するなかから、子どもの悩みを把握できるように積極的に働きかける努力をしてほしい。 		
	③今年度重点的な取り組み		④進捗状況	
	生活アンケートの実施、事象への組織的な指導をする。		○随時取り組みと共に保護者とも連携して継続的に取り組んでいる。	
自己評価	項目			
	小学校		A+B	
	児童	前年度	(3-1) なやみや体のことを相談しやすい先生が学校にいる。	71.7%
		本年度	(3-1) なやみや体のことを相談しやすい先生が学校にいる。	70.1%
	保護者	前年度	(3-1) 学校には、悩みや心身の健康等を相談しやすい先生がいる。	65.8%
本年度		(3-1) 学校には、悩みや心身の健康等を相談しやすい先生がいる。	60.6%	
教職員	前年度	(3-1) 学校は、児童や保護者が悩みや心身の健康等を相談しやすい状況にできている。	95.5%	
	本年度	(3-1) 学校は、児童や保護者の悩みや心身の健康等を相談しやすい状況にできている。	77.3%	
⑤自己診断	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>児童</p> <p>71.7% 70.1%</p> <p>前年度 本年度</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>保護者</p> <p>65.8% 60.6%</p> <p>前年度 本年度</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>教職員</p> <p>95.5% 77.3%</p> <p>前年度 本年度</p> </div> </div>			
⑥改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B の肯定的な意見については、児童において 70.1%、保護者において 60.6% となっている。 ・ 昨年度は、児童 71.7%、保護者 65.8% であり、児童・保護者とも数値が下がっている。さらに相談しやすい先生がいないと記した児童約 11%、保護者約 5% であり、その数値は重く受けとめなければならない。 ・ 教職員についても 77.3% と昨年度 95.5% から約 20% 近く下がっており、児童の悩みなどに対応し切れていない現状を認識している。昨年度の学校評価の反省を踏まえ、取り組みの改善を図っているところであるが、児童や保護者の心には十分にはまだ届いていないところもある。また認識のズレがある場合もある。 ・ 通信や連絡帳、ホームページなどの通信手段で学級の様子を伝え、子どもと面談するなど日常の関係作りを行い、気になることがあれば電話連絡・家庭訪問などですぐに対応し、保護者と連携して意識的・組織的にていねいな取り組みをしていく。 ・ 子どもたちに具体的な相談の仕方を授業の中にロールプレイ等を取り入れながらわかりやすく教える。 ・ カウンセラー等の専門家の授業やアドバイスを受ける研修の設定をする。 ・ 子どもや保護者の思いを日常的に受けとめる窓口（保健室や「トトロの部屋」等）の利用を伝えていく。 ・ 「相談しやすい」状況づくりを教育委員会等外部関係機関と協力して進める。 ・ 児童との面談を実施する。また、「悩みを自分だけで考えずだれかに伝えよう週間」等を児童会で企画し取り組む。 			
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起きた事象に対する認識の食い違いがある場合もあるので面談等相談活動を積極的に行うことが大切である。相談機能を充実させるためには教職員による児童、保護者への信頼関係を築く取り組みをさらに進めてほしい。 ・ 教職員の自己評価が昨年度より 20% 近く下がった原因を明らかにしていく必要がある。逆に言えばそこに取り組むべき課題があるということである。また、教職員の評価が自分自身に対する評価であるのか学校全体に対する評価なのかも明らかにしておく必要もある。 ・ 児童の約 1 割が「相談しやすい」とは感じていないという結果は重く受け止めてほしい。また、相談しにくい理由や内容も把握していく必要がある。健康面等で男性の担任には相談しにくいと捉えていることも考えられ、そうしたことへの対応システムを児童や保護者に知らせておくことも必要である。 ・ 児童や保護者が相談に来るまで待つのではなく、教職員の方から何らかの働きかけを積極的にしていく必要があるのではないか。 			

		①テーマ		「頭づくり」A学習指導について			
		②昨年の指摘		<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上は、本校の最重要課題の一つであり、具体的なとりくみが急務である。算数科における実績を踏まえて、学校独自のカリキュラム作り診断テストの実施、反復学習によるスキルの定着等に取り組む。国語学力実態テストを1学期に行い、実態分析に基づき指導方法・指導内容について検討・改善を行う。漢字や語彙等についてとりたて指導や練習問題を行い、スキルの定着を図る。 ・日常的学習習慣や宿題、自学自習のとりくみを見直し、個々の力量のアップを目指す。 ・体験的な学習を意識的に展開し、基礎基本の定着を図る。 			
		③今年度重点的な取り組み		④進捗状況			
		基礎・基本の定着と学力アップを目指す ○国語を中心にした授業研究による指導力の向上。 ○朝の学習タイムの実施時間（8：35－8：50） 朝計算：（木） 朝読書：（月・金） 朝国語：（水） ○音読カード（全学年宿題）・本読みカード（各学年） ○業間、放課後、長期休業中に補充学習の実施 ○各種授業参観アンケートの実施 ○学期ごとの学力診断テスト ○班活動と学習ルールの確立 ○英語活動の充実		大阪教育大学教授を迎えての授業研究 ○説明文の読み取りに関する公開授業の実施・一人読みの継続。 ○個人カード・しおり・読書ノートにより読書量を知らせる。 ○問題集の利用・音読の習慣化・保護者の協力による効果 ○夏休みの学習室開放、業間・昼休みの個別補充学習等実施 ○保護者の授業評価からの授業改善・分析結果の公表 ○学習ルールの徹底を継続中（最後まで話を聞く・手を挙げて発表・わからない時は意志表示・仲間と関わる方法や言葉についての指導・チャイム行動等） ○担任とALTのTTによる英語活動の充実。			
自己評価	⑤自己診断	小学校		項目		A+B	
		児童	前年度	(2-2)国語の授業はよく分かる。	85.7%		
				(2-1)算数の授業はよく分かる。	90.0%		
		本年度	(2-2)国語の授業はよく分かる。	90.3%			
			(2-1)算数の授業はよく分かる。	87.4%			
		保護者	前年度	(2-2)学校は国語力を高めるためにしっかりと取り組んでいる。	68.5%		
				(2-1)学校の算数の少人数指導（分割やTT等）は、学力向上に役立っている。	91.8%		
		本年度	(2-2)学校は国語力を高めるためにしっかりと取り組んでいる。	82.1%			
			(2-1)学校の算数の少人数指導（分割やTT等）は、学力向上に役立っている。	96.1%			
		教職員	前年度	(2-2)学校は、児童の国語力を効果的に高めるとりくみができている。	31.8%		
(2-1)学校は、学校の算数の少人数指導（分割やTT等）で児童の学力を効果的に向上させている。	100%						
本年度	(2-2)学校は、児童の国語力を効果的に高める取り組みができている。	87.0%					
	(2-1)学校は、学校の算数の少人数指導（分割やTT等）で、児童の学力を効果的に向上にさせている。	100%					
		<ul style="list-style-type: none"> ・算数の少人数指導の効果については、分割のやり方や実態テストでの分析など、システム的にも教職員・児童・保護者とも理解しており、高い評価を得ている。児童の評価については、算数をまだ苦手だと思っている児童もいる。個々の児童の課題に即した授業づくりが大切だ。保護者から「分割でも、クラスによって指導法がちがうようだった。」という指摘もあり、教師間での連携はさらに強めなければならない。 ・朝タイムでの国語ドリルの導入、2学期実施の国語実態テストの分析、2学期2回実施の研修会（研究授業の前後に子どもたちにつけなければいけない力を全教員で確認する事前研・事後研）を実施したことが効果として表れた。 ・7次加配教員により、3～6年において、習熟度別少人数分割授業を9月以降取り組み始めた。児童の個々の実態に合わせた指導をはじめたことが児童の満足度として表れている。教職員87%については、まだ取り組みの途中であり、議論を尽くす必要がある。 					
		⑥改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・新指導要領による移行時期においても、朝計算の継続・実態テストの取り組みを続け、学校としてカリキュラムを確立する。 ・担任と7次加配教員がよく連携し、指導の統一を図る。また公開授業を行い、研究を深める。 ・国語力をつけるための指導計画や評価基準について、本校として決めていかなければならない。 ・基礎・基本を定着させる復習・評価の機会を設定する。 			
		学校関係者評価		<ul style="list-style-type: none"> ・算数、国語共に、児童・保護者から82～96%と高い評価をしてもらっていることはすばらしい。 ・指導の統一性、目標の基準性を図ることが必要である。 ・保護者に授業評価をしてもらうこともよいことと思う。学級・学年懇談により多くの方の参加を得る努力をし、より多くの方から意見や評価をもらえるように努力してほしい。 ・解るように優しく指導してくれる先生が好きになったことが成績や取り組み姿勢の向上に結びつくこともある。指導者側の目標を明確にそして適切に定めて、児童を励ましながらか高めていくことが大切である。 ・本読みカードは効果的であると思える。継続して取り組んでほしい。 			

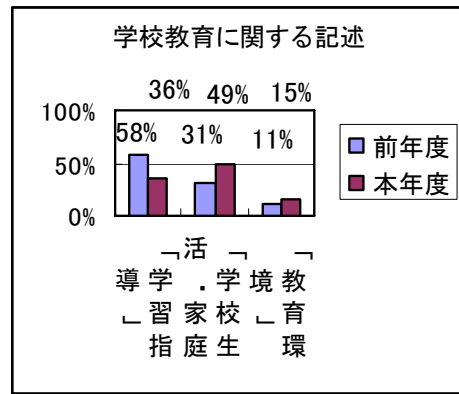
①テーマ	「頭づくり」B通知票について																						
②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、評価基準や評価資料についての説明を保護者にもっと明確に示す必要がある。 ・学校は、児童が頑張ったところ、また励みになる言葉等をしっかり書き、教師が捉えている子どもの実態を知らせると共に子どものやる気を引き出す評価に努めてほしい。 																						
③今年度重点的な取り組み		④進捗状況																					
<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準を学年間や隣接学年間で交流し、より統一性のあるものにしていく。 ・良さの発見に努め、児童を励まし、学習の意欲を高めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に評価についての学習会を実施。また学年会や低中高で評価のあり方について交流し、共通認識を深めた。 ・研究授業において評価基準や判断基準のあり方について研究討議を行った。 																					
自己評価	小学校	項目		A+B																			
	児童	前年度	(2-3)通知票（あゆみ）で自分のがんばりがよく分かる。	88.5%																			
		本年度	(2-4)通知票（あゆみ）で自分のがんばりがよく分かる。	89.0%																			
	保護者	前年度	(2-3)通知表の評価や記録は適切で分かりやすい。	71.7%																			
		本年度	(2-4)通知表の評価や記録は適切で分かりやすい。	75.4%																			
	教職員	前年度	(2-3)学校は、通知表（あゆみ）の評価や記録を児童や保護者にとって適切で分かりやすいものにできている。	81.8%																			
		本年度	(2-4)学校は、通知表の評価や記録を保護者や児童にとって適切で分かりやすいものにできている。	87.0%																			
	⑤自己診断	<table border="1" style="display: none;"> <caption>児童</caption> <tr><th>年度</th><th>評価率</th></tr> <tr><td>前年度</td><td>88.5%</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>89.0%</td></tr> </table> <table border="1" style="display: none;"> <caption>保護者</caption> <tr><th>年度</th><th>評価率</th></tr> <tr><td>前年度</td><td>71.7%</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>75.4%</td></tr> </table> <table border="1" style="display: none;"> <caption>教職員</caption> <tr><th>年度</th><th>評価率</th></tr> <tr><td>前年度</td><td>81.8%</td></tr> <tr><td>本年度</td><td>87.0%</td></tr> </table>				年度	評価率	前年度	88.5%	本年度	89.0%	年度	評価率	前年度	71.7%	本年度	75.4%	年度	評価率	前年度	81.8%	本年度	87.0%
		年度	評価率																				
	前年度	88.5%																					
本年度	89.0%																						
年度	評価率																						
前年度	71.7%																						
本年度	75.4%																						
年度	評価率																						
前年度	81.8%																						
本年度	87.0%																						
<ul style="list-style-type: none"> ・児童に比して保護者の評価が低い原因を調べる必要がある。「分きたいことが分からない」とした不満もあると考えられ、保護者の要望を明らかにしていく取り組みを進める。 ・観点別評価や関心・意欲・態度についても、見直しをしていく必要があると考えられる。 ・教職員は 87.0%だが、不十分であると捉えている課題や内容もさらに明らかにし、より適切な評価にしていかなければならない。 																							
⑥改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科や行動の記録の評価基準を職員で確認し、保護者に対して、説明できる評価資料の作成をさらに進める。 ・単元や授業における判断基準（A基準 B基準）を単元導入時等に児童にも知らせていく。 ・学級通信、学年便り、懇談等を通して評価に関する情報を的確に提供していく。 ・関心・意欲・態度や観点別評価に関する研究を進め、評価の改善を図る。 ・評価について小中で交流していく。 																						
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の判断基準や評価の資料のあり方が学年間で大きく異なることがないように統一性、系統性を持たせることが大切である。 ・通知票は個人の成長の記録を伝えるものである。評価基準や評価資料を正確に児童・保護者に示し、児童・保護者がさらに実態を正しく認識できるようにしてほしい。 ・文章表現を通して児童・保護者がさらに努力しようという意欲がもてるように努めてほしい。 																						

自己評価	①テーマ	A 小中連携について		
	②昨年の指摘	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は、子どもたちの実態をしっかり把握し、実態に則した学習指導に努めてほしい。 ・担当者間の話し合い等で改善されてきたところもあるが、指導者は、子どもがやる気を出す細やかな配慮をする努力も必要である。 ・小学校教員による中学校での数学授業の効果のありようについても確かめておく必要がある。 		
	③今年度重点的な取り組み		④進捗状況	
	いきいきスクールの継続 中学校教員による6年英語活動と社会の授業を継続する。		<ul style="list-style-type: none"> ○中学校教員とALTとの連携による英語活動を実施している。 ○中学校教員による6年生の社会科授業を実施している。 ○小中交流会(年3回)の実施。 ○6年生が中学校で学習し、中学校の授業やクラブ体験を実施している。 	
	小学校		項目	A+B
	児童	前年度 本年度	(1-4) これからもいろいろな中学校の先生に教えてもらいたい。 (1-4) これからもいろいろな中学校の先生に教えてもらいたい。	68.2% 74.4%
保護者	前年度 本年度	(1-4) 中学校の先生が6年生に社会や英語など教科を教える小中連携は、よいシステムである。 (1-4) 中学校の先生が6年生に社会や英語など教科を教える小中連携は、よいシステムである。	88.6% 93.2%	
教職員	前年度 本年度	(1-4) 学校は、小中が連携してとりくんでいる社会や英語の授業等をよいシステムとして効果的に機能させることができている。 (1-4) 学校は、小中が連携して取り組んでいる社会や英語の授業等をよいシステムとして効果的に機能させることができている。	31.8% 63.6%	
⑤自己診断	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>児童</p> <p>前年度 68.2% 本年度 74.4%</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>保護者</p> <p>前年度 88.6% 本年度 93.2%</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>教職員</p> <p>前年度 31.8% 本年度 63.6%</p> </div> </div> <p>・実際に授業を受けている6年生の評価は概ねよい。4年生、5年生は、実際に授業を行っていないのでよくわからないためか、6年に比して評価は低かった。そのため全体的にポイントが下がった。</p> <p>・保護者の評価も概ねよい。また、意見も肯定的な意見が多い。</p> <p>昨年度と比べると児童約6%、保護者約5%ほどよい評価に上がっている。</p> <p>・教職員の評価が上がったのは、昨年度を振り返り、小中で課題・改善策を話し合い、改善がいくらか進んだ結果であると思われる。</p>			
⑥改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者、教職員とも評価が上昇した要因を明らかにし、小中でシステム作りを進める。 ・中学校と連携を密にしていくことが大事である。連携窓口以外に担当学年や委員会等での具体的な交流を図っていく。 			
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に中学校の指導を受けている児童を対象として評価アンケートをとる方がよいのではないかと。今年度の場合は、4、5年生が授業を実際には受けていないので、児童の評価の尺度の信頼性が低くなる。 ・4、5年生が中学校の指導を受けることが可能かどうか検討し、工夫してほしい。 ・保幼小中の教職員同士の心の交流をさらに深めてほしい。 			

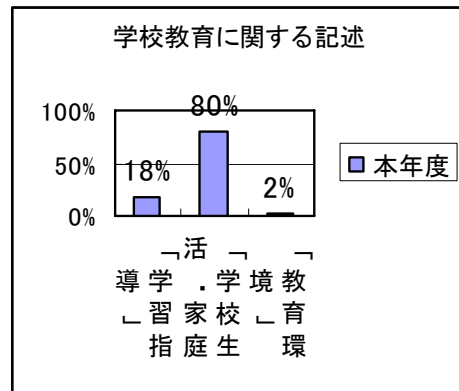
①テーマ	体力づくり			
②昨年の指摘	・体力づくりについての取り組みの充実に努力してほしい。			
③今年度重点的な取り組み		④進捗状況		
健康で元気な体を育てる ○朝食アンケート学校生活アンケートの実施 ○ジョギングタイム 縄跳び朝会		○朝食アンケート学校生活アンケートの実施と集約、給食だよりによる公開と指導。 ○12月 1月 2月に実施(ジョギングタイム、縄跳び朝会)。		
⑤自己診断	小学校		項目	A+B
	児童	前年度		
		本年度	(2-3) 体育や行事で運動する力がよく伸びている。	87.4%
	保護者	前年度		
		本年度	(2-3) 学校は子どもたちの体力をたかめるためにしっかりと取り組んでいる。	65.7%
	教職員	前年度		
本年度		(2-3) 学校は、子どもたちの体力を効果的に高める取り組みができています。	72.7%	
自己評価	<p>児童 87.4%</p> <p>保護者 65.7%</p> <p>教職員 72.7%</p>			
	児童の評価については、日ごろの体育や運動会、水泳の取り組みでの満足度が出ていると考えられる。保護者は65.7%と低いが、今年度から始めた2学期、3学期のジョギングタイムや、縄跳びの全校的な取り組みを実施する以前の評価である。しかし、水泳や日ごろの体育の授業のあり方を、見直さなければならない。			
	⑥改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科のカリキュラム作りを進める。 ・体力向上に向けて全校的に取り組みを継続していく。 ・水泳指導及び夏季休業中の水泳教室について改善を図る。 		
		学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・強い体力が知力や精神力を支える面もある。また集中力を養うのにも体力は基本的に重要なことであるから、新しい取り組みが始まったばかりだが、取り組みが充実するように努力してほしい。 ・ジョギングや縄跳びなどもよいが毎日続けて行えるものも検討してほしい。 	

「自由記述欄」学校教育・家庭教育に関して

	関連項目	前年度	本年度
保護者	「学習指導」	58%	36%
	「学校生活・家庭との連携」	31%	49%
	「教育環境」	11%	15%



	関連項目	本年度
児童	「学習指導」	18%
	「学校生活・家庭との連携」	80%
	「教育環境」	2%



○学校教育についての記述に関して

	保護者	児童
1. 「学習指導」に関して	<p>自由記述の約4割が学習指導に関する記述だった。少人数指導や小中連携システム等方策については肯定的な評価。しかし、指導の連携性、教材研究の共有化、宿題の出し方や家庭学習との連携等に関しては課題を指摘されている。運動や体力に関する取り組みの充実の要望もある。水泳については指導時間数の確保・夏季休業中の水泳指導の充実を求める要望もあった。2学期末から3学期にかけては朝のジョギングタイムや縄跳び朝会に取り組んでいるが、これは次年度評価を頂くことになるだろう。また、児童の学習等の評価のあり方については、より適切な評価のあり方や児童の励みに繋がる評価を期待する意見も寄せられている。一方、本年度朝国語に取り組み出したが、これについては肯定的評価であり、国語の学習課題克服に向け取り組みを期待されている。学ぶことの楽しさを感じられる教育や子どもが自分に自信を持てるような教育、また仲間作りを学校に期待する意見がある一方で、学力の低下が指摘され様々な論議がされるなか、学力向上をメインとするような取り組みを期待する意見もある。</p>	<p>算数や国語における少人数指導や学び方別の取り組みの効果的側面を感じている意見がある一方、教師の教え方で理解に差ができると感じている意見がある。 クラブについては選択の幅が広げられることを希望している。</p>
2. 「学校生活・連携」に関して	<p>記述の約5割が学校生活や家庭との連携についてであった。学校の取り組みや学級担任の運営に満足という意見がある一方、教師によって、担任によって指導や受け止めの違いがあり組織的連携の弱さがあるとする意見がある。いじめや悩み相談に関して指導に納得していない意見が複数寄せられている。学校や学級の取り組みの情報が十分に提供できていないためか、あるいは意見交換が不十分なためか実態と原因を探らなくてはならない。また、学習指導、生活指導、学級経営、情報提供等担任による違いに言及する意見も複数寄せられている。さらに下校指導の必要性や安全確保の要望、日曜参観の要望等もあった。</p>	<p>いじめやトラブル、悩み相談に関して、指導のあり方に児童が納得していない意見が割にある。教師が意見を聞いてくれないと受け止めている場合もある。どれが正しい云々ではなく、児童の気持ちにフィットしていないことがあると考えられる。この現実を指導者がまず受け止めなくてはならない。 また、生活指導や学級指導で基本的なルールについてしっかりと指導・注意してほしいという要望もある一方で、それに関して「先生がよく言っている」と記述している児童もいる。教師の在りようが問われている。</p>

3. 教育環境	<p>学校の人的条件や地理的条件、校舎の老朽化や緊急連絡に関するもの等の意見・要望が主なものであった。特に体育館の結露に関するものが多く寄せられた。外気の温度が急激に下がると、鉄筋部分に結露ができ、それが体育館内に相当量落ちて来る現状があるからである。人的条件や校内体制に関しても要望も寄せられているが、教職員の努力はプラス評価されている。また、1年の下校指導や集団下校、緊急連絡等のあり方に関する要望も寄せられている。一方高学年の保護者から、入学当初より掃除等が行き届くようになってきたというこの間の取り組みを評価する意見もあった。</p>	<p>校舎の老朽化やトイレの臭いについて改善の要望が挙げられている。予算を伴うことは難しい問題も多々あるが、修繕や掃除等で改善できることに取り組まなくてはならない。</p>
4. 改善策について	<p>自由記述の分類によれば、学習指導 36%・「学校生活・家庭との連携」が 49%・「教育環境」 15%であり、昨年度比で学習指導が約 2 割減り、学校生活・家庭との連携と教育環境が増えた。</p> <p>学習指導については、組織的連携の取り組みの弱さに関連した意見が複数寄せられているが、指導形態や指導方法、教材の取り扱い、評価基準や判断基準等指導者間での共通確認の重要性を物語るものである。多忙な中、打ち合わせの時間が十分確保できない現状はあるが、その時間や相互の授業評価を意識的にやらなくては授業改善を行えない。学年会に専科や 7 次担当者も参加し取り組みの改善を行っている。</p> <p>学校生活・家庭との連携については、児童や保護者と意思疎通をはかり連携して対応するという点について、まだ担任間で差があり、十分に改善されたとは言えないことを指摘する意見が寄せられている。これまでの反省に立ちケース会議をこまめに開いてきているが、話し合ったことを十分には取り組めていない状況があったり児童や保護者との認識のズレがあったりするという点である。取り組みを複数で確認したり児童・保護者と面談を行ったりし、気持ちの受け止め、事実の確認、取り組みへの理解を図っていく。</p> <p>施設面の要望では予算措置が十分に行えるという状況ではないが、行政への要望も繰り返し行っており、打開策を模索中である。人事面に関することはなお一層難しさを伴うが、校内体制を工夫する等改善策を検討していく。</p>	<p>学習指導については、児童が「わかりにくい」と感じていることを把握し、指導者間の共通の課題として取り組まなければならない。児童による授業評価・自己評価等、指導者間における授業参観・授業評価、学年会での研究等を充実させる。</p> <p>生活指導関連事項については、児童や保護者との認識のズレをまず直視しなければならない。児童の現実とフィットした取り組みを展開するために、児童との面談、つづり方指導に取り組むころから再構築する。</p> <p>教育環境に関する施設面等については日常の掃除や物の取り扱い方から見直したり、修繕したりして改善に学校挙げて取り組む。校内委員会の方針として打ち出していく。</p>

学校教育に関する記述（主な意見・要望例の要約）

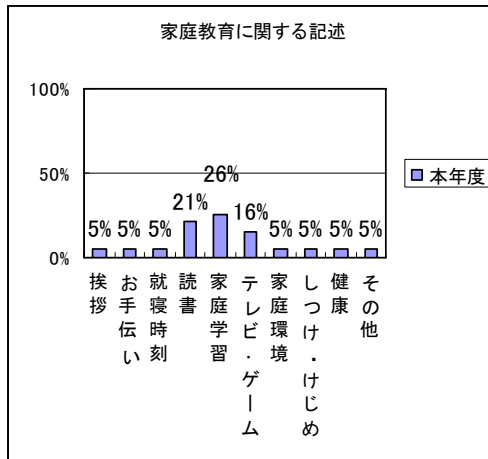
保護者	児童
<ul style="list-style-type: none"> ・情報の伝え方は、どの学年・クラスも差がないよう分かりやすく伝える努力をしてほしい。 ・生じた問題への対応は学年・クラスによって差がないよう組織的に連携した取り組みにしてほしい。担任以外へも相談できるようにしてほしい。 ・小中連携は中学校での授業のやり方に触れるよい機会である。 ・算数の少数指導はありがたいが、先生によって教え方や分かりやすさが異なるのは気になる。 ・朝国語はいいことだと思う。 ・音読カードの活用をさらに工夫してほしい。 ・いろいろな取り組みの評価をはっきりさせ、子どもが自信をつける場面を作ることも大切。 ・けんかといじめは違う。自分の気持ちをぶつけ合う体験から学ぶこともある。 ・緊急メール登録を必ず各家庭でももらい緊急事態・連絡に備えてほしい。 ・体育館の結露対策をしっかりと行い、安全に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのとき、先生には事実をよく確かめて判断してもらいたい。 ・先生が子どもの気持ちを分かっていると思う時がある。 ・いじめに先生が気付いていない時がある。 ・算数のとき先生によって分かりやすさが違うことがある。 ・挨拶運動をすることでいろんな人とあいさつができる。

○家庭教育について

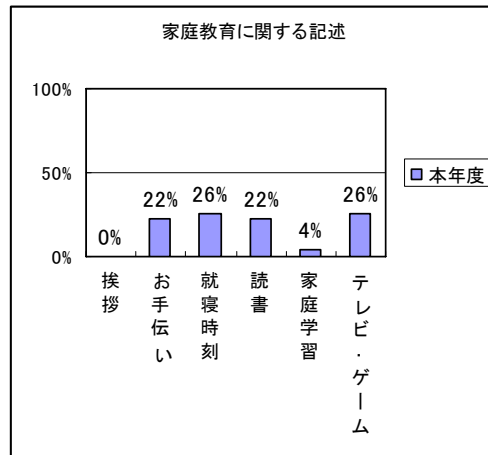
		1 (4-1) 学校では挨拶運動にとりくんでいます (問い) 家庭でも「おはよう」「おやすみ」等の挨拶をさせていますか。 A: いつも・B: だいたい・C: あまり・D: させていない		2 (4-2) 学校では当番を通して協力や責任を学んでいます。 (問い) 家庭でも子どもに手伝いをさせていますか。 A: いつも・B: だいたい・C: あまり・D: させていない		3 (4-3) 健康や学習には睡眠が大切です。 (問い) お子さんは何時ごろ寝かしていますか。 A: 9時までに・B: 9時~10時までに・C: 10時~11時までに・D: 11時より後・		4 (4-4) 学校では朝の読書活動をとりにくんでいます。 (問い) 家でのお子さんの読書回数の様子はどうか。 A: ほぼ毎日・B: 1週間に3、4日・C: 1週間に1、2日・D: 1ヶ月数回以下		5 (4-5) 学校では、朝の読書、計算練習等で自学自習の力をつける取り組みをしています。 (問い) お子さんは、毎日家庭学習をどのくらいしていますか。 (塾や習い事は含めない) A: 1時間以上・B: 30分~1時間ぐらい・C: 30分ぐらい・D: ほとんどしない		6 (4-6) 長時間テレビ (ゲームも含めて) を見る児童も多い傾向にあるようです。 (問い) お子さんは、毎日テレビ (ゲームも含めて) をどのくらい見えていますか。 A: 1時間未満・B: 1時間以上2時間未満・C: 2時間以上3時間未満・D: 3時間以上	
年度		07	08	07	08	07	08	07	08	07	08	07	08
保護者	A+B	97.3%	97.6%	80.4%	76.6%	70.3%	70.2%	22.8%	47.6%	35.6%	43.5%		48.8%
	C+D	2.7%	2.4%	19.6%	23.4%	29.7%	29.8%	77.2%	52.4%	64.4%	56.5%		51.2%
児童	A+B	89.7%	93.6%	75.1%	74.8%	65.1%	62.9%	47.0%	54.5%	62.3%	70.3%		53.3%
	C+D	10.3%	6.4%	24.9%	25.2%	34.9%	37.1%	53.0%	45.5%	37.7%	29.7%		46.7%
		1 (4-1) 子どもの家庭での挨拶の指導について保護者と協力して取り組んでいる。 A: とてもそう思う・B: そう思う・C: あまりそう思わない・D: そう思わない		2 (4-2) 子どもの家庭での手伝いの指導について保護者と協力して取り組んでいる。 A: とてもそう思う・B: そう思う・C: あまりそう思わない・D: そう思わない		3 (4-3) 子どもの就寝時刻について保護者と協力して取り組んでいる。 A: とてもそう思う・B: そう思う・C: あまりそう思わない・D: そう思わない		4 (4-4) 子どもの家庭での読書について保護者と協力して取り組んでいる。 A: とてもそう思う・B: そう思う・C: あまりそう思わない・D: そう思わない		5 (4-5) 子ども家庭学習について保護者と協力して取り組んでいる。 A: とてもそう思う・B: そう思う・C: あまりそう思わない・D: そう思わない		6 (4-6) 子どものテレビ視聴の仕方や時間について保護者と協力して取り組んでいる。 A: とてもそう思う・B: そう思う・C: あまりそう思わない・D: そう思わない	
年度		07	08	07	08	07	08	07	08	07	08	07	08
教職員	A+B	68.2%	61.9%	45.5%	42.9%	54.5%	42.9%	72.7%	61.9%	68.2%	71.4%		23.8%
	C+D	31.8%	38.1%	54.5%	57.1%	45.5%	57.1%	27.3%	38.1%	31.8%	28.6%		76.2%
自己診断		挨拶については、子ども、保護者ともに高い意識を持って取り組まれている。		家での手伝いについては、一定その必要性を子どもも保護者も意識して取り組まれているところが多い。ただ、手伝いについてあまり意識されていないところもある。		9時から10時までの間に寝ている子どもが多い。高学年になるに連れて10時以降に寝ている割合が増え、その数が約半数に達している。習い事や晩のテレビ番組などを見ることが考えられる。		昨年度に比べて、児童・保護者ともに読書への関心が少し高まった。家庭での読書に関しては、保護者の意識が大きく左右されると考えられる。クラスによって大きなばらつきがある。家庭と学校の取り組みとのつながりがあまり図れていない。		昨年度に比べて、児童・保護者ともに家庭学習への関心が少し高まった。低学年は30分以内。中学年以降は30分から1時間の家庭学習の割合が大きい。中学年と高学年の学習時間にあまり変化が見られない。子どもが実際学習している時間と保護者が思っている時間とでは、ひらきがあり、保護者が思っている以上に、子どもは学習している意識を持っているようである。		テレビを見ている時間は2時間以内が多い。しかし、高学年になるにつれて、その時間が増えている。テレビゲームをする時間が増えるためではないかと考えられる。	
改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・学校での読書の取り組みを家庭にも広げていくような方策 (家での課題図書をあたるなど) を考え、保護者と学校で読書好きな子どもを育てていく。 ・学年に合わせた学習時間や宿題の量、予習・復習も含めた家庭学習の仕方などについても学校から発信していく。 ・家庭での手伝いについては、その目的や大切さが理解できるよう、学校でも積極的に学習の中 (道徳等) にも取り入れて、子どもたちや保護者の方々に働きかけていく。 ・テレビやゲームの時間については、あまり長くならないように、引き続き学校から発信していく。 ・PTA 総会や学級懇談を利用して、図書担当等による読書指導の研修を行う。 											

○家庭教育の記述に関して

保護者	関連項目	本年度
	挨拶	5.3%
	お手伝い	5.3%
	就寝時刻	5.3%
	読書	21.1%
	家庭学習	26%
	テレビ・ゲーム	15.8%
	家庭環境	5.3%
	しつけ・けじめ	5.3%
	健康	5.3%
	その他	5.3%



児童	関連項目	本年度
	挨拶	0%
	お手伝い	22%
	就寝時刻	26%
	読書	22%
	家庭学習	4%
	テレビ・ゲーム	26%



家庭教育に関する記述 (主な意見の要約)

保護者	児童
<ul style="list-style-type: none"> 挨拶などは大人が見本を見せねばならないと思う。 本を読む楽しさをどのように伝えたらいいのか。 読書時間が少ないことを子どもに話したところ、時間も増え、ジャンルも広がった。 自主学習を自らできるよう上手な時間の作り方をアドバイスしてほしい。 外で元気に遊ぶことで、体で覚えたり学んだりすることがいっぱいある。今しかできない勉強でもあるのでは。 家でのことは親が積極的に環境作りをしていかねばと思う。 親に対する口の利き方に多少悩んでいる。もう少し人を敬う心を持つよう育てたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 家でお手伝いをしようと反省した。 料理の手伝いをあまりさせてくれない。 お手伝いをすると褒められて嬉しい。 ゲームばかりしている。 テレビはいろいろな情報が分かり勉強にもなる。